

1. 研究室概要

大学名	首都大学東京 大学院		研究者	笠松 慶子
			職位	准教授
研究領域	人間工学、ヒューマンインタフェース		窓口担当	産学公連携センター 草間 茂
研究キーワード*	ユーザビリティ評価、心の動き、生体計測、人間工学			
住所	〒191-0065 東京都日野市旭が丘 6-6			
電話	042-677-2759	E-mail	kusama-shigeru@jmj.tmu.ac.jp	
FAX	042-677-5640	URL	http://industrial-art.sd.tmu.ac.jp/kasamatsu/	

2. 技術PR事項

『製品の使いやすさを評価してみませんか』

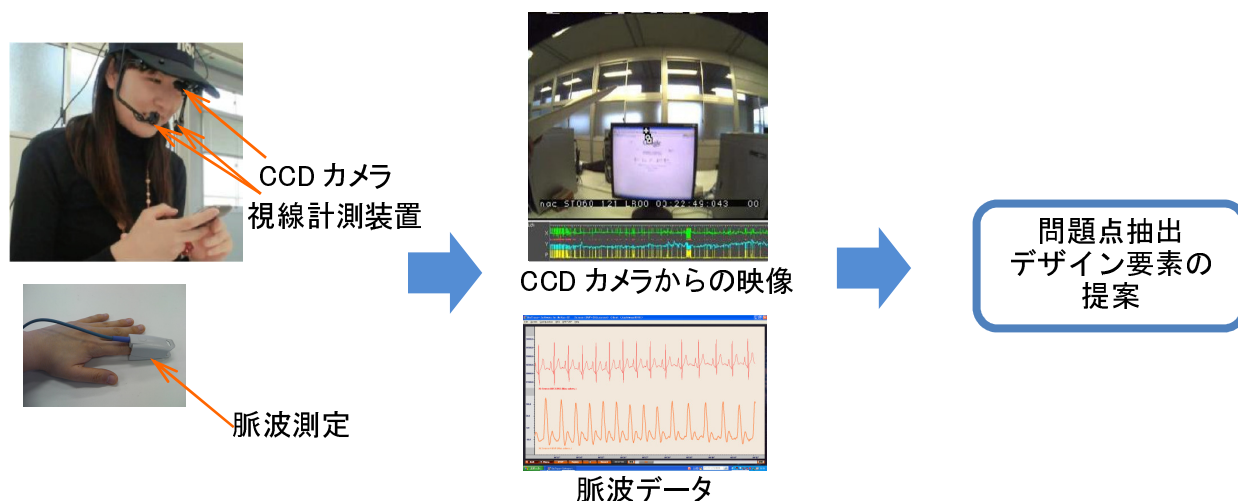
「心理学とモノ作りを関連づける」という観点から、ユーザーがモノに接するとき、視覚・聴覚・触覚などから得た情報にどのような感情を抱くかについての研究を行っています。

1. 概要

人がモノを使うとき、安全に使えることや間違った操作をしないように設計することは必須ですが、「魅力ある製品」のためには、いかに「使いやすい」「もっと使いたい」と思わせることができるかが重要です。

<研究内容>

- ◆「潜在的な魅力」を定量的に評価する方法として、人間の無意識の動き(生理現象)を指標とした「生理指標」の可能性を探求、確立することを目指しています。



2. 希望する連携内容(共同研究、試作品作りなど)と相談に対応できる技術分野

- ◆製品のユーザビリティ評価や製品・システムにおける改善のための心理・生理データ収集について協同研究を希望します。また、人間の心理・生理データに基づいて、製品に必要なデザイン要素の提案を行います。

連携内容

- ・ユーザビリティ評価
 - ◇ 人間工学的・感性工学的解析
- ・デザイン要素の評価

相談分野

- ・生活用品など、人間が使用する製品やシステムについて、行動、生体情報や心理的側面から分析を行い、問題点を抽出

3. 特記事項

- 代表論文: 笠松慶子, 柏瀬七絵, 木曾宏顕, 山岸未沙子, 神宮英夫, 福住伸一: 携帯電話における使用期間による魅力に関わる感性要因の相違について, 日本人間工学会誌, Vol.47, pp.42-43, 2011